

緑の芝生 広がる鳥取方式

【上】



22.10.31

鳥取・美保小 芝生化の取り組み



芝生の上で気持ち良さそうに走り回る子どもたち
＝鳥取市吉成の美保小学校

日本の子どもの体力低下が社会問題化している中、鳥取市の保育園や小学校のグラウンドに芝生をつくる取り組みが広がっている。転んでも痛くない、フカフカとした感触……。子どもたちは外で遊び、元気になり、運動能力が高まる。草や芝を頻繁に刈り込む「鳥取方式」の芝生化はしっかりと根付いている。

■フカフカの校庭

鳥取市吉成の美保小学校（西尾

幹雄校長）。休憩時間のチャイムとともに、子どもたちが青々とした芝生の校庭へ駆けていった。雨上がりの肌寒さをものともせず、どの子もはだしになって、鬼ごっこやフリスビーなど、グループになって遊び始めた。走りやすい。こけても痛くない。「フカフカで気持ちがいい」と元気いっぱいだ。住宅街にある同校は、全面を芝生化している市内では唯一の小学校。県体育協会の補助金（初年度40万円）で、昨年6月、約2千平方メートルの校庭に生育旺盛な品種の苗を移植した。

■変化の兆し

「子どもたちが外でよく遊ぶようになった」と西尾校長。遊び方が多様になり、あまり遊ばなかった女の子や、職員も一緒に遊ぶ

体力、情緒面変化 地域交流拠点にも

外遊びで元気に

よつになった。多い日は児童数約600人のうち200人以上、車座でおしゃべりしたり、おおむけに寝転がってくつろぐ姿も見られる。

体力や情緒面でも変化が現れた。50分走や持久走など全園体力テストの成績が上がり、欠席者や給食の食べ残しが減った。生活全般に落ち着きが見られるようになり、けがも減少した。「4、5年たってみないと本当の効果は分からないが、いい傾向が見えてきた」。砂ぼこりが立たなくなり、虫や鳥が訪れる。夏の暑さがしのげ、納涼祭など地域の交流拠点として住民にも喜ばれているという。

■強力な支援

維持管理は、芝刈りと水やりが中心。同校では自治会と公民館、保護者と学校が芝生緑化委員会のボランティア組織をつくり、当番制で行っている。美保地区自治会の今川登会長（71）は「はだして遊んだり寝転んだり、子どもたちに昔のような素晴らしい体験をさせてやりたい」。美保公民館の安木睦天館長（65）も「できる協力はいくらでもしたい」と支援を惜しまない。

鳥取市教育委員会は実施校に対して1平方メートルあたり25円の助成を本年度から始めた。自治会や保護者会からの寄付を加えて、肥料、冬芝の種、燃料などの経費に充てている。芝生化されるまで、外で遊ぶ子どもたちが少ないことを心配していた西尾校長。「芝生は元気な子どもが育ってくくひとつひの場だ」と、喜々として遊ぶ子どもたちの様子を見て実感する。